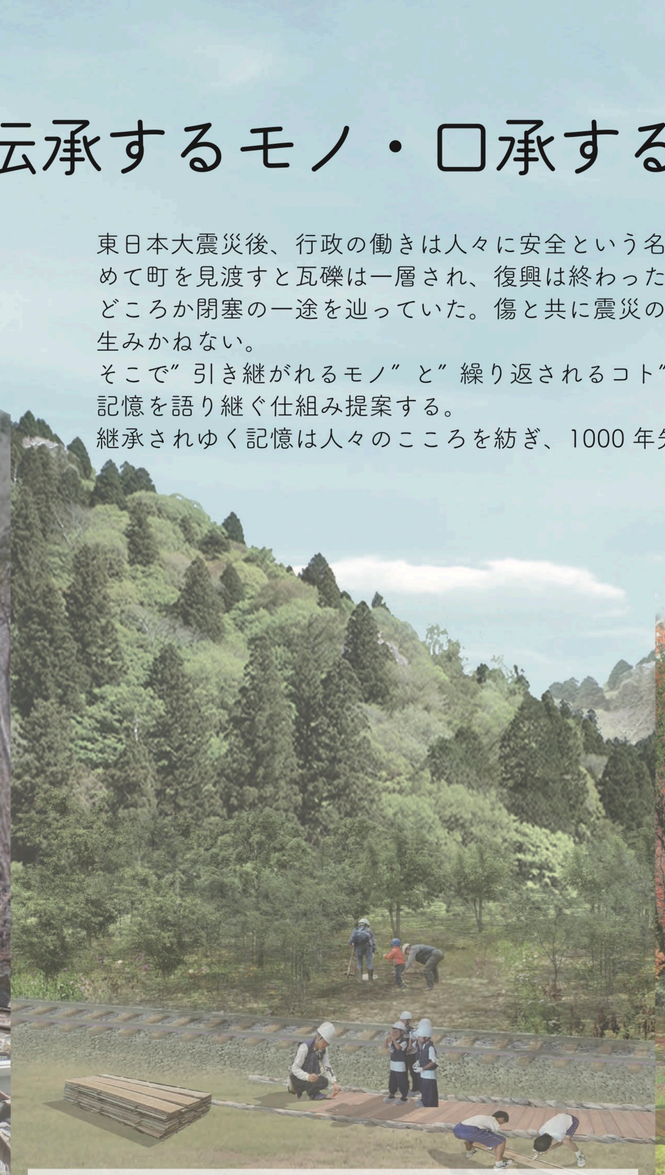
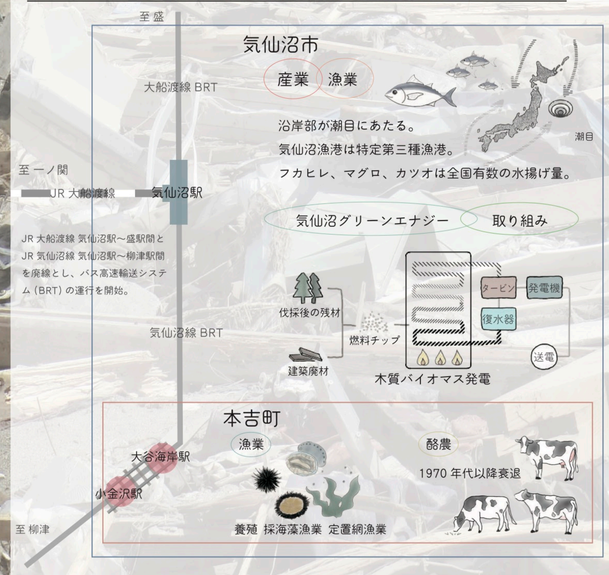
伝承するモノ・口承するコト・継承するココロ

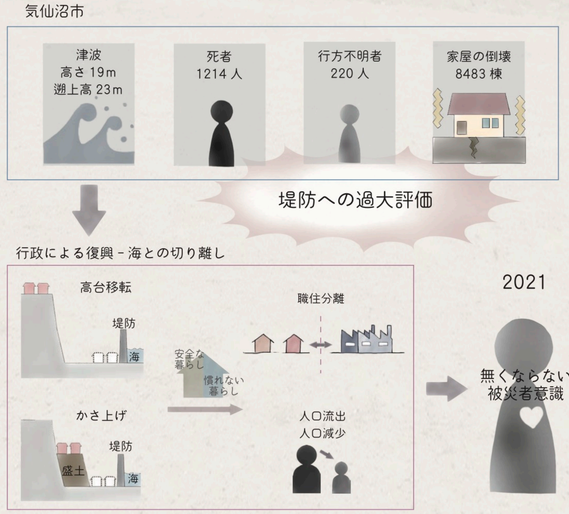
東日本大震災後、行政の働きは人々に安全という名の慣れない暮らしをもたらした。10 年たった今、改めて町を見渡すと瓦礫は一層され、復興は終わったかのように見える。しかし住人たちの心の傷は癒えるどころか閉塞の一途を辿っていた。傷と共に震災の真相がしまい込まれつつある現状は、再び同じ悲劇を生みかねない。
そこで〝引き継がれるモノ〟と〝繰り返されるコト〟の交わりが生み出す空間やアクティビティを通して、記憶を語り継ぐ仕組み提案する。
継承されゆく記憶は人々のこころを紡ぎ、1000 年先の未来の命を救うのではないだろうか。



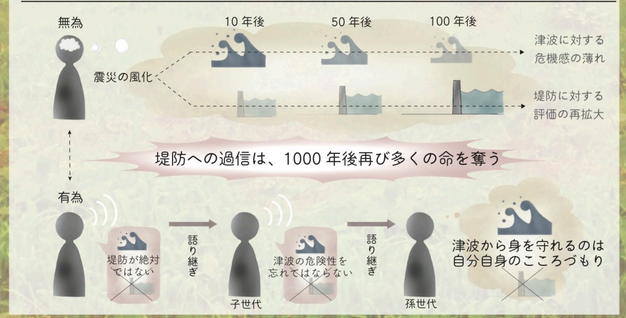
01 調査 Research 廃線跡残る小さなマチ



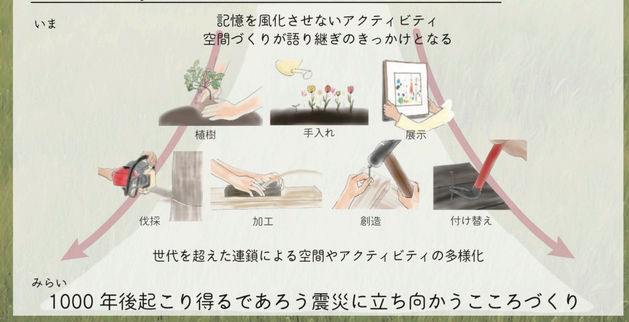
02 意識 Mindset なくならない被災者意識



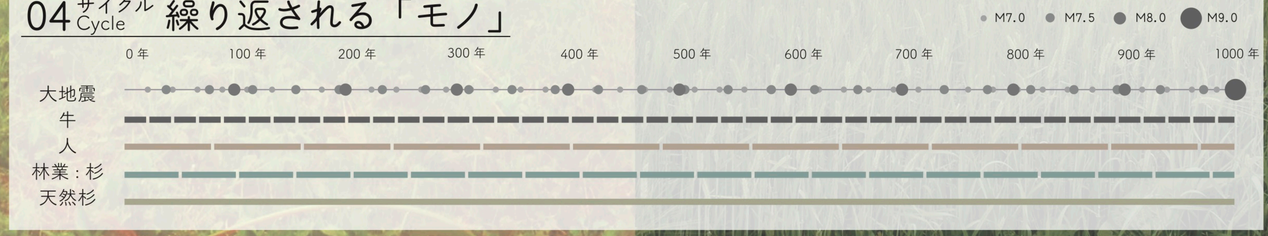
03 口承 Narrative 1000 年後へのこころづくり



05 体験 Activity 引き継がれる「コト」



04 サイクル Cycle 繰り返される「モノ」



06 地図 Map 口承と伝承の地図

心に語りかける風光明媚な景観

地形の変化に時代を望む

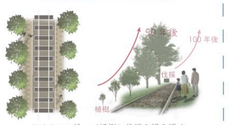
波による海岸線の後退に沿った展望台から、旧線路跡や海を望む

まちの当たり前を取り戻す

こころを育む木の成長

経年を感じる大木として維持する

日常に溶け込む線路



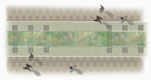
サイクルに沿って植樹と伐採を繰り返す

ゆっくりと訪れる穏やかな日常

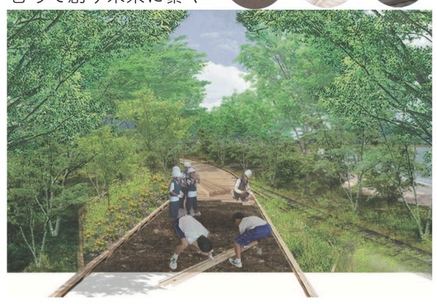
変わらない形と守りたいカタチ

朽ちて消えゆく線路跡に花を植える

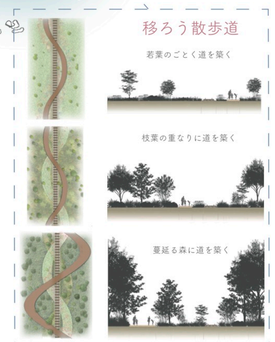
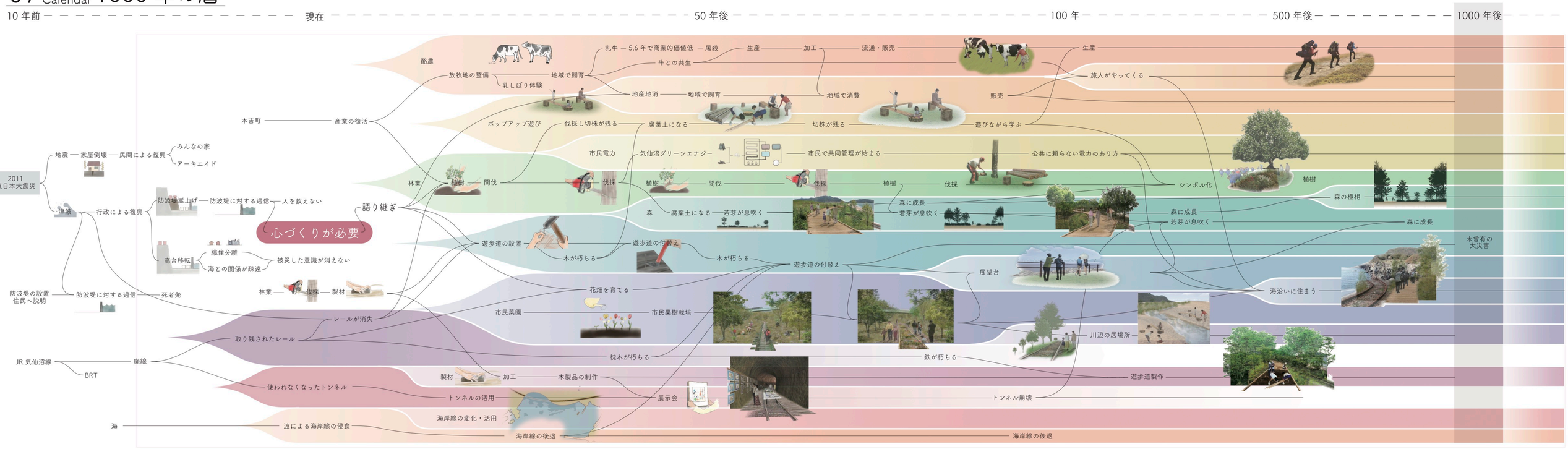
線路を人々の心の中で守り続ける



自らで創り未来に繋ぐ



移ろう散歩道



07 暦 Calendar 1000 年の暦